

真に必要な道路整備の着実な推進  
～四国8の字ネットワークから生活道路まで～

政策提言先 国土交通省・財務省

政策提言の要旨

地域の自立と多様化を実現し、安全で安心して生活ができる国土形成をめざす上で、大都市と地方との格差の解消に努めることは、国民生活の質の向上に寄与することから大いに期待をするものですし、そのためには国と地方が一体となって、その実現に向けて努力する必要があります。

住民の安全で安心な生活を実現し、地域間の格差を解消するためには、必要最低限の社会基盤が確保されていることがその前提条件になることから、今後は、国土政策、経済政策の観点からバランスのとれた投資戦略が必要になってまいります。

特に道路整備において、大都市部のように、渋滞などの外部不経済を解消する効果が大きい道路整備と、地方のように、社会基盤が希薄であるが故に存在する未活用の資源などを有効活用する為の道路整備とは同じではありません。

なかでも、未だに高速道路等の未整備区間であるミッシングリンクが存在する地域においては、救急搬送の遅れによる救命率の低下や、豪雨災害時等には、道路が寸断され地域や集落が孤立するなど、道路整備が進んでいる地域からは、想像ができないような実態があります。

このため、以下の内容について、提言をいたします。

【政策提言の具体的内容】

- 1 住民の命を守り、地域の安全・安心や活力を確保するためには、二重、三重の投資や無駄な事業を抑制し、これまで必要最低限の整備すらもできていない地域に優先的に投資することが効果的だと考えます。  
○社会資本整備の遅れた地域における限界効用（安全・安心や地域開発効果等）は大きいものがある。
- 2 安全で安心して生活できる国土形成、観光アクセスの向上や地域間連携・物流機能の強化のためには、高規格幹線道路「四国8の字ネットワーク」の早期完成が必要不可欠だと考えます。  
○現在事業中である区間の整備を着実に推進する。  
○地域の実情に応じた構造・規格（完成2車線など）で早期のネットワーク化を図る。
- 3 地域の活力や日々の暮らしを支える幹線道路や生活道路は、整備が遅れている地方にとって最低限必要な社会基盤であり、コスト縮減や地域の実情に応じた様々な工夫をしながら、着実に整備を進めることが必要だと考えます。  
○1. 5車線的道路整備  
○中山間走行支援システム